

<h1>指導資料</h1>  鹿児島県総合教育センター 平成28年10月発行	<h2>外国語 第82号</h2>
	対象 幼稚園 小学校 中学校 校種 高等学校 特別支援学校

他者との学び合いを取り入れた英語授業の進め方 —書く活動を通して—

個性や考え方が異なる他者との積極的なコミュニケーションを図る、互いに高め合う協働学習は、外国語教育には不可欠であると考えます。そこで、協働学習を取り入れた英語授業の進め方を紹介します。

1 協働学習の必要性

『高等学校学習指導要領解説外国語編・英語編』によると、表現することについて、以下のことに配慮することが示されている。

書いたものを生徒が自ら読むだけでなく、生徒どうして文章を読み合い、改善点を指摘し合うことが重要である。このことにより、書く力を伸ばすことのみならず、他の生徒の考えなどを知ることで事実や意見などを多様な観点から考察する力を養うことや、共に学ぶという情意面での良い働きけにもなることが期待される。

ペアやグループで話し合わせる場合には、教師があらかじめ確認するポイントを提示するなど、活動を円滑に進めるための配慮が必要である。例えば、論説の場合は、論旨が首尾一貫しているか、主張は十分にサポートされているか、つながりを示す語句は適切に示されているかなどの観点を挙げておくことで、生徒が文章を推敲するときの指針とすることができる。

個性や考え方が異なる他者と積極的にコミュニケーションを図り、良好な関係を築かせることで、国際社会を生きていく人間を育てなければならない。生徒が互いに教え合い、高め合う協働学習は、外国語教育に必要不可欠であり、様々な活動を通して取り組むことが可能である。そこで、今回は、読んだ内容を英文で表現する際の手順を紹介したい。

2 協働学習の進め方（留意点）

ペアやグループでの教え合いや練習により、英語が苦手な生徒も、英文を書いたり、クラス全体で発表したりすることが容易になる。なお、時間が多すぎると活動が間延びするので、短めに設定する方がよい。また、教師が机間指導をする際は、まず、英語が苦手な生徒が活動に参加できているか

を確認する。必要に応じて、既習単元で用いた表現・単語を書いたヒントカードを与えたり、友達の作品を鑑賞させながら必要な情報を追加させたりするなどの補充指導を行う。一方、書く条件を満たした生徒は、友達の作品を鑑賞させ、新たな視点や考え方に気付かせたり、よりまとまりのある英文作成に必要な言語材料を提示したりするなどの深化指導を行う。

グループを編成するに当たっては、次の2点に留意したい。

まず、活動を他人に頼ってしまう生徒が出てこないよう、グループの人数は男女混合の4人を原則とする。次に、習熟の程度や人間関係を考慮して教師主導で編成するのが望ましい。書く活動において生徒の表現の質を高めるためには、生徒に互いの英文について意見を述べ合わせたい。その際、当センターが提唱している「判断基準」の考え方を取り入れることが有効である。

3 実践

(1) 教師の手立て

外国語科における「判断基準」とは、外国語表現の能力、外国語理解の能力の2観点から評価基準を設定し、その評価基準を分析的に具体化した「判断の要素」に基づいて「判断基準」を設定するものである。「判断基準」によって示されるものは単元の終末で目指す生徒の姿であり、教師は、この「判断基準」を踏まえ、以下のような質問を行うとともにチェックシートを生徒に配布する。

Irena followed her belief and saved

many Jewish children. What do you think her belief was? And what do you think about it? Do you think she was a hero? Please write your own opinions in at least five sentences.

生徒はチェックシートを基に自分の表現に不足している内容を書き加えることができる。また、英作文を終えた後は、グループで全ての項目が満たされているかなどを確認したり、相互に修正を行ったりする。以下に今回の実践におけるチェックシートの項目を示す。

- Irena の信念とは何かを述べている。
- その信念について賛成か反対かを述べている。
- 賛成か反対かの理由を述べている。
- Irena がヒーローかどうかを述べている。
- ヒーローかどうかの判断理由や意見を述べている。
- 5文以上の英文で述べている。

(2) 教え合いによる英作文改善例

生徒が個人で表現した英文

Her belief was that people should help the people who have troubles. I agree. It is natural that everyone is equal. I think she was a hero because she saved many children's lives. I'd like to be a brave person like her.



教え合いにより書き直した英文

Her belief was that people should help people in trouble. I agree with her. It is natural for us to do that. By helping people who have trouble,

we can make them feel happy. And also we can feel happy. I think she was a hero because she saved many children and reunited some of them with their families. I'd like to have a strong sense of justice like her.

多くの生徒が、教師の質問に答える形で“Her belief was~”で書き始めておりスムーズに1文目を書き始めることができている。しかし、論旨の一貫性については、生徒により個人差があり、グループでの教え合いを通して改善された生徒が多い。上記の個人で書いた英文とグループで教え合った後の英文を比べると、1文目でIrenaの信念について、2文目でその信念への賛否を述べ、3文目で自分の考えを付け加えるところまでは、大きな差はない。しかし、教え合った後の英文では、4・5文目で更に前文までを補強しており、文の一貫性が強い。しかも、4文目は、1文の中で、動名詞、関係代名詞、(make+人+動詞の原形)と複数の既習の文法事項を駆使しながら、他の生徒にも理解しやすい表現となっている。内容面では、「困っている人を助けることで、その人たちを幸せにすると同時に自分たちも幸せになれる。」と、人間としての生き方について述べており、また、“reunited”という単語を使うことで、助けた子供の一部を家族と再会させるという温かさを感じさせるものとなっている。このように教え合うことにより大きな変容が見られるようになる。

(3) ALTの活用

授業中にALTが行う役割の例として、

- ア 活動についての説明、助言、講評
- イ 言語モデルの提示
- ウ 音声、表現、文法等についてのチェックや助言
- エ 児童生徒との会話
- オ 母国の言語や文化に関する情報提供等が挙げられるが、英作文の指導においても、大いに力を発揮する。書く活動において、ALTとティームティーチングを行い、多くの生徒の英文をALTにチェックしてもらう。場面に応じた適切な語句の使用ができているか、また、接続詞や代名詞を適切に使用しながら一貫性のある文が書けているかなどを確認してもらうことで、生徒が実際のコミュニケーションに役立つ表現の工夫を身に付けることにもつながる。

(4) 発表内容についてクラスでの共有

発表した内容については、クラス全体で確認する時間を十分に確保したい。互いの発表に質問の時間を確保することにより、発表を聞く生徒の集中力は大いに高まる。また、発表内容をクラス全体で共有することにより、友達の考えを理解できるとともに、自分の考えと比較しながら意見を述べることができる。発表に対する内容理解の質問から、意見や感想を述べるまで、段階的に高めたい。さらに、発表した生徒は、他の生徒が自分の発表した内容を理解していることが自信となり、次回の発表への意欲につながる。なお、生徒に書いた作品を発表させる際は、以下の点に留意したい。

- ア 指名はせず、自発的な発表を促すこ

とで、積極的態度を育成する。

イ できるだけ原稿を見ないで発表させ、
実際のコミュニケーションを意識させる。

ウ 発表を聞く生徒には、メモを取りながら聞かせ、教師の質問に答えたり、自分の考えを述べたりする準備をさせる。

(5) 模範作品の共有化

以下に生徒の作品例と教師の質問例を示す。例1・2共に前述のチェック欄の全ての項目の要求を満たしており、更に自分の考えも述べている。例1に関しては、既習の文法事項を駆使しながら、1文加えている点も高く評価したい。教え合うことにより、内容、一貫性、文法面における、高まりが表れている。

模範作品例

例1 Her belief was that people should help other people who need help. I agree with her because she stood up against Nazis to save many Jewish children. I think she was a true hero because she didn't think she was a hero even after she saved a lot of lives. I want to be a good woman like her. Now she is a hero not only for the Jews she saved but also for me because her story taught me how to live.

生徒の発表後、教師は発表を聞いた生徒に、以下のような質問をしたい。

Q1. What was Irena's belief?

Q2. Does he/she agree with Irena's belief?

Q3. Why?

Q4. Does he/she think Irena was a hero?

Q5. Why?

Q6. What can you do to be a good woman like her?

Q7. What do you think to listen to her speech?

例2 Her belief was that people should help people in trouble. I agree with her belief. Thanks to her, many Jewish children were saved. I think she was a hero because she tried her best to save many children and reunite them with their families. I want to be a courageous person like her.

例2の発表の後には、例1のQ1~5の質問に加え、次の質問等が考えられる。

Q6. What can you do to be a courageous person like her?

発表後は生徒が書いた作品を回収し、ALTの協力も得ながら添削指導を行う。内容面、文法面に優れた作品は、他の生徒にも配布し共有する。作品を書いた生徒は、クラスで紹介されることが自信となり、次回英文を書くことへの意欲向上につながる。一連の学習を通して、お互いに高め合いながらコミュニケーションの育成を図りたい。

—引用・参考文献—

○ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説—外国語編・英語編—』平成22年

○ 『協働学習を取り入れた英語学習のすすめ』平成26年、大修館書店

○ 『研究紀要第119号』平成27年、鹿児島県総合教育センター

(企画課)